

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛

笠岡市用之江377

郵便番号714-0066

(0865)

電話 66-1311

FAX 66-1314



米府分教会

明治42年3月12日	米府宣教所	設立
大正元年12月8日	移転	
大正8年7月24日	移転建築願	
大正8年10月28日	支教会昇格	
大正9年8月16日	新築教堂崩落事故	
昭和23年9月27日	教会改築願	
昭和24年5月14日	奉告祭	

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

立教186年
10月号

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。



教祖140年祭

東大教会史料部と会合

— 笠岡の道編纂委員会

笠岡の道編纂委員会は、9月25日、笠岡詰所で、東大教会史料部との会合を開いた。

これは、6月に同委員会が東大教会へ赴いた事が契機となり、両大教会の史料の上から、交流を図ろうと開催された。この日は、笠岡から大教会長様も含め6人、東から5人の委員が出席し、文献や写真など様々な史料を共有した。
(委員 上原 繁 次)

『秋学』初の開催

学担

10月1日、笠岡学生担当委員会(上原繁次委員長)は、大教会で『秋学』を開催した。

この行事は、『感謝をカタチに』をテーマに初めて開催され、11人が参加した。

午前中のプログラムは、グループで進行。班のメンバー同士の親睦を深めたり、自分がお世話になった人に、ど



参加者全員で窓ふきひのきしん



古山先生による分かりやすいお話



食わず嫌い王決定戦のステージ



お言葉カルタ



講師の先生と和やかに集合写真



好物の中に1つだけ…

うやうや感謝を表すかを考える『サポーター』が、実施された。その後は、古山和敬先生(東濃学生担当委員会委員長)による講話となった。古山先生は、教祖年祭の意義や、陽気ぐらしについて、時にはフリッ

プを使いながら、大変分かりやすく学生にお話し下さった。午後からは、窓ふきひのきしんの後、レクリエーションが行われた。特に大教会長様と古山先生による『食わず嫌い王決定戦』は、大変盛り上がり、和

やかなひとときとなった。参加した学生は、自分を支えてくれている人たちへの感謝に気付くと共に、陽気ぐらしの心遣いについて学ぶ事ができ、有意義な1日となった。
(委員長 上原 繁 次)

立教百八十六年 九月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ				てをどり			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者			
									大	前	上	大	前	大	中				吉	虫	大	中	虫	大
今川佐智子	内海安子	上原順子	上原繁次	中村義太郎	門脇元教	岡崎真一	中村剛	岡崎治喜	田中ますみ	前奥様	大教会奥様	上原繁道	前会長様	大教会長様	三代温生	虫明立生	吉岡壽	坐り勤	田中隆之	中村道徳	大教会長様	虫明立生		
横山小智榮	門脇加津	岡崎豊子	杉原善朗	岡田誠	谷内伸自	赤木素志	内海史郎	今川昌彦	吉岡八恵	室悦子	武内正美	横山逸郎	吉岡誠一郎	田中隆之	渡邊隆夫	上原浩	佐藤道孝	前半	十一月講話	指図方	賛者	渡邊隆夫	佐藤真孝	上原繁道
田中つかさ	上原千枝子	三島照美	佐藤真孝	高木昭祥	三島渉	谷内秀自	山田敏教	岡崎真一	山野和美	岡崎和	谷内美知子	森本忠善	中村道徳	上原志郎	浅野明教	山野弘実	中島誠治	後半	海外伝道講話	指図方	賛者	渡邊隆夫	佐藤真孝	上原繁道

立教百八十六年 秋季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめ				てをどり			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者				
									大	前	上	大	前	大	中				吉	猪	大	今	大	吉	浅
山野なつ	岡崎和美	三島照美	岡崎真一	虫明立生	森本忠善	上原浩	中村道徳	佐藤真孝	門脇加津	前奥様	大教会奥様	上原志郎	門脇元教	大教会長様	上原繁次	山野弘実	前会長様	前半		指図方	賛者	浅野明教	今川昌彦	大教会長様	吉岡誠一郎
谷内美知子	吉岡八恵	岡崎豊子	本多正悟	田光昭	吉岡輝弘	森川道弘	友井正人	三代幸徳	上原千枝子	田中つかさ	上原順子	岡崎治喜	岡本善一	藤井保人	掛谷善成	吉岡貞彦	猪原啓介	後半		指図方	賛者	浅野明教	今川昌彦	大教会長様	吉岡誠一郎

詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- 詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- 食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には人間創造の目的である陽気ぐらしを楽しみに 日々は万一切の御守護を下さると共に旬に応じ成人に成じてお育てお導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は夏から秋への季節の移り替わりの中に親神様の御守護お働きを感じつつ 朝夕に御礼申し上げると共に 親心にお応えするべくたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はたすけの元立てとお教え頂くおつとめをつとめる定めの日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び心たすけ心も一人に明るく陽気に勇んで坐りつとめてをどりをつとめて 九月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月をいがいけ強調の月と定めて頂いておりますのでいつもにも増してにをいがいけに歩ませて頂いておりますが 月末二十八日から三十日に掛けては全教一斉にをいがいけデーでございますので 教会長を始めよぶく信者が一手一つの心で一人でも多くの方に親の思いを届けられるよう にをいがいけおたすけに邁進させて頂く所存でございます また来月は 大祭月でございますので直轄教会に大祭参拝させて頂き 立教に込められた親心を再確認すると共に 教祖百四十年祭に向かって定めたそれぞれの教会の目標の達成に向かって 心合わせて成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には お与え頂く旬の理を生かすべくたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護を賜り お望み下さる陽気ぐらしの世の状が 一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎本部月次祭 登殿参列

立教186年9月26日登殿

廣町宮本泰徳
福廣宮本正子
福勇宮本昭子
福芦竹井利昭
福満竹本和道
福島大介



秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにる刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自の神霊 歴代会長と共に道の上に真実を尽くされた役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の神霊 また新たにお鎮まり下さいました中村満子刀自 岡崎節夫大人 仁科富太郎大人の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

祖霊様方には 親神様教祖のお見定めとお引き寄せにより世の人々に先んじてこのたすけ一条の道をお通り下さいました その道のは決して平坦なものではありませんでしたが その道をいんねんの自覚の上親神様教祖に凭れて心明るくたすけ一条の上に勤め切られました 今日お道が結構な姿をお見せ頂いておりますのは 親神様教祖のご守護お導きの賜物である事は申すまでもありませんが また一つには祖霊様方の真実の伏せ込み理作りの賜物と 日々朝夕にお礼申し上げると共に 祖霊様方のご思報じの思いを受け継ぎ 届かぬながらもたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも本日は 秋の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に海川山野の心づくしの種々の物を供えて 只今はおつとめ奉仕人一同 親神様の御前にてをどりをつとめさせていただきました 続いて祖霊様方の御前に座を移し在りし日を偲び御遺徳を称え お礼申し上げる皆の真実の姿をご覧下さいまして 祖霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて私共は教祖百四十年祭に向かって「つながろう、おやさまのお心に。つなげよう、信仰の喜びを。」の活動方針の元それぞれに目標を定めて 三年千日と仕切つて成人の歩みを進めさせて頂いております また来月二十九日にはご本部からお打ち出し頂いている「ようぼく一斉活動日」の第一回目がそれぞれの会場にて開催されます 親の声を素直に受け止め 今後の歩みの大きな勇みとさせて頂く所存でございます

何卒祖霊様方には この成人の旬に 心を一つに合わせてたすけ一条に邁進する皆の真実の状をご覧下さいまして 陽気ぐらしの世の様に 一歩でも前進できるようお力添えの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

◎第九八五期修養科

自 立教186年7月1日
至 立教186年9月27日

*教 養 掛(主任、副主任)

一ヶ月目 ⑤ 田 林 久 嗣

(大教会役員・東悠分教会長)

⑤ 村 川 久 美 子

(大江橋分教会長)

二ヶ月目 ⑤ 田 中 隆 之

(大教会役員・福山分教会長)

⑤ 藤 井 保 人

(福東分教会長)

三ヶ月目 ⑤ 上 原 繁 次

(大教会准役員・陶山分教会長)

⑤ 仙 田 公 男

✳了者

大恵山 瀬藤 俊希
笠岡 中村 幸恵
笠岡 中村 三三代

(天場山分教会長)

◎立教186年秋季大祭参拝

(*印は11月)

輝美濃	照陽	吸江悠	東悠	海松ヶ岡	芳井	陶山	ひろさと	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高山	*鶴山	久松	島根	神邊	高屋	福山	笠岡講社
大教会長様	岡崎真一様	田中隆之様	大教会長様	岡崎真一様	岡崎真一様	門脇元教	中島誠治	上原繁道	中島誠治	中島誠治	上原繁道	前会長様	武内正美様	大教会長様	上原繁道	大教会長様	上原繁道	前会長様	大教会長様

新山邑	武内正美様	皆石部	大教会長様	明石市	武内正美様	上原繁道	上原繁道	府中市	上原繁道	東城市	大教会長様	*服部	田中隆之	島中	武内正美	*葦陽	田中隆之	湯田原	岡崎真一	備中	田中隆之	神昭	門脇元教	美之郷	門脇元教	錦備	大教会長様	神免	上原繁道
-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	------	-----	------	-----	-------	-----	------	----	------	-----	------	-----	------	----	------	----	------	-----	------	----	-------	----	------

計報

武内清明さん

大教会承事
門司港分教会前会長
9月19日出直されました。
享年 67才



栗の実はおしくらまんじゅうイガの中
娘たちが小学生の時、次女に宿題の中
俳句例として詠んだもので、後に表彰
されることになった長女作の句であ
る。栗を見る度に思ひ出す迷作である。

長女がこの夏に結婚して苗字が変
わった。幼少期から三人娘というか三
つ子のようにすごして、いつもお手本
のようなお姉さんだった。

最近SNSでさっくりとお互いの
生活などを垣間見て、何かあれば心配
したりアドバイスしたり、他愛もない
話題で繋がっているの、寂しくは無
い。良い距離感である。

「おいハンサム」というドラマがあ
る。吉田鋼太郎が三姉妹を育て上げる

姿を面白くそして時代の流れの中で足
掻きながら奮闘する其々を描いてい
る。人生の選択肢が迫るたびに家族会
議をし、娘たちに、確り悩め！やり
残しを恐れるな！やり残してこそ人
生だ！と熱弁する。無くしてしま
たくないものや人、それが失われたく
なければ積極的に関わるしかない。と
も。

あの人どうしてるだろうか？とふ
と浮かんだら、連絡が無いの
は達者でやっておられるって
ことだと、いつもは何もしな
いのだが、きつと年祭活
動が後押ししてくれるの
で、躊躇しないで何か連
絡してみよう。(ほ)

